2020
令和2年度

宗学院 別科受講生募集

僧侶が正しい教義安心を身につけることこそが教化・伝道における大きなちからとなります。

別科は、平成14年に教義安心について多くの方に学んでいただきたいという願いから開講いたしました。現在、浄土真宗の教義の深淵を明確に伝承・宣布する必要があるとの思いから、宗学院の充実強化をすすめております。布教伝道する場合も、住職としてその任務を遂行するにあたっても、教学の基礎をしっかりおさえておかなければなりません。その教えについて、体系的かつ持続的に学べる場が宗学院別科です。志ある多くの方々の出願をお待ちしております。

式典

参拝研修

公開講座

特別講義

□ 担当講師

「安心論題」担当
安心論題で教学のカナメが学べます。
本願寺派勧学
龍谷大学教授
深川　宣暢

「本典概説」担当
本典を通して、教義体系の全体像を学びます。
本願寺派司教
龍谷大学教授
殿内　恒

「三経七祖教義」担当
親鸞聖人の教学の基盤は浄土三部経と七祖の教えにあります。
本願寺派司教
龍谷大学教授
武田　晋

「仏教概論」担当
仏教を学べば、浄土真宗の基本が分かります。
本願寺派司教
龍谷大学教授
能仁　正顕

浄土真宗本願寺派
宗学院
〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 本願寺門前町
浄土真宗本願寺派宗務所 勧学寮内
TEL. 075-371-5181(代)
http://shugakuin.hongwanji.or.jp

受講生の声 ―こえ―

本川　いずみ

平成25年度より受講

「念仏の声を世界に、子や孫に」これは、私が若い頃、長年聞き馴染んでいた本願寺のスローガンです。安心の世界が時空を超え広がりつながりゆくことは、ただ阿弥陀さまの独りばたらきに他なりません。

しかしながら、真宗僧侶の嗜みとして、この私に出来ることは、先ず私が宗祖のお言葉に訪ね、お聞かせ戴くことから始まると考えます。

宗学院別科は、僧侶の範となる教師資格以上の僧侶のための確かな学びの場です。私自身、沢山の不思議なご縁を戴き、目下６年目の受講を楽しませて戴いております。その最たる理由は、ここには、確かな学びがあるからです。未熟な私どもを育んでくださる和上様たちの有難いご講義には温かな願いがあります。一入一入、薄墨に染まるかのように、繰り返し講義を聞かせて戴く中、沢山のお育てを戴くことです。

一週間に一度のご講義は、阿弥陀様の願い、宗祖の念いを聞かせて戴く大変有難い時間です。また、この確かな喜びを、沢山のご法友とご一緒に味わわせて戴けるそんな喜び大きな学びの場でもあります。

私ども僧侶一人ひとりの確かな学びが礎となって、お念仏の喜びが、世界に、子や孫に広まりゆくのではないかと思います。

利國　敦之

令和元年度より受講

昨年度まで布教研究専従職員として本願寺における総永代経や帰敬式等で、法話をさせて頂いていました。その中でいつも注意していたのが、仏教及び浄土真宗の専門用語をただ多用することではなく、ご法義を受けた自らの味わいから出た言葉でお伝えてしていくということでした。自分の法話は本当にこれで良いのか、と自問自答の繰り返しでした。

その為に、浄土真宗の宗学をしっかりと抑えていきたいという思いから改めて宗学を学ぼうと思い、今年度の宗学院別科を受講致しました。宗学院別科では、「安心論題」「本典概説」「三経七祖」「仏教概論」の四つの講義があります。それぞれの講義では和上先生方による最新の研究結果と豊富なレジュメを通して、お話をして頂けます。また不明瞭な所は、研究員の方にいつでも質問することができます。毎週木曜日、受講生の皆様と共に一日中ご法義漬けになれる慶びを頂けるのが宗学院別科です。

木村　暁子

平成27年度より受講

得度から十数年、教学から遠のいていた私がたまたまのご縁で別科を受講してから早５年が経ちます。その間、ご講義くださる和上方を始め、学びを共にする方々、助手・職員の皆様にお育ていただき、当初は言葉さえ知らなかった「殿試」や「安居」というご縁に遇わせていただいていることに驚いております。

別科では、４つのご講義を通して、和上方の深いお味わいと共に釈尊・七祖・宗祖のみ教えを丁寧に教えていただき、さらにそれらの教えが１つに繋がっていることにも気づかせていただけます。又、週１回ですが、だからこそのご縁を大切にされる方々が集われご法義の学びを本当に慶ばれています。

どうぞ皆様も、いつでも始め、帰って来ることのできる宗学院別科で共に尊い学びのご縁に遇ってくだされば有難いです。

吾勝　あかね

平成25年度より受講

私は5年連続宗学院別科を受講させていただきました。6年目、毎週通うという条件が整わず受講できませんでした。しかし、一年あいて今年、ご縁を頂きまして、改めて別科を受講させていただけることになりました。毎週木曜日龍谷大学の大宮学舎本館にお参りさせて頂き、一日中法水の中に浸ることができますのも、並大抵のご縁ではないと改めて教えていただきます。

ここでは4人の和上様方からご講義を頂くのですが、集中力のない私のことですから、一体どれほど身に染みて聞かせていただけているかは本当に自信がありません。けれども、最高の和上様方から繰り返し繰り返し聞かせて頂けているということは、ただ事ではないのです。一言一言ずつ知らず知らずのうちに染みていまして、知らず知らずのうちにわかっていなかったことを知らせていただいているというお育てにあずかっています。気がついてみると、お聖教には線や書き込みがあり、行間の意味まで教えて頂いているのです。それは、「仏法聞いておくれよ」の宗祖の声であり、阿弥陀様のご本願を知らせるためにこの世にお出ましくださったお釈迦様の声であり、それは元をただせば阿弥陀如来様の「真実を聞いておくれよ、真実に目覚めておくれよ」のお呼び声なのであります。

毎日毎日世間のとらわれ事、私の執着に縛られる生活ではありますが、そこに仏法を聞くことこそ、人間に生まれてきた値打ちなのではないでしょうか。

論文指導について

宗学院別科では、受講証・修了考査合格証明証の発行および本願寺賞の授与の選考基準として、毎年ごとに提示されるテーマに沿った研究報告論文の提出が必須となります。さらには、学階取得の場においても、論文審査が実施される場合があります。

論文とは、主観的な見解を述べる感想文と異なり、自身が明らかにしたい事柄を出拠に基づきながら客観的に論証していかなければなりません。そのため、序論・本論・結論という基本的な論述形式を守りつつ、

- **その論文を書くことの意義**
- **先行研究の確認**
- **論拠の妥当性**
- **参考文献からの引用手順は適切であるか**

など、様々な点に注意を払いながら執筆する必要があります。

しかしながら、これまで論文を執筆した経験がない方や、経験があったとしても書き方に不安を感じている方もおられるかもしれません。そのような事から、

令和2年度より別科助手（本科研究員・文学博士）による論文指導を実施することになりました。

指導内容として、年間2回（前期・後期1回ずつ）、通常講義とは別に時間を設け、受講生全体に論文執筆のための基礎的な講義を行います。さらに、通常講義後の質疑応答の時間に、論文執筆に関する質問や執筆テーマに沿った個別指導にもあたります。

宗学院別科では、講義に関する質疑に加え、論文指導の充実を図ることで宗学研鑽・学階取得など、各受講生の目的に沿えるような体制を整えております。